

愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業

愛知県立常滑高等学校 小池璃緒

1日目 3.23

・出国

空港を出た途端のサウナのような暑さや、車で移動しているときの窓から見えるカラフルな景色で、異国の地であるタイに来たのだと実感しました。ピンクのタクシーが走っていたり高層ビルが連なっていたり、日本とは違う景色を沢山目の当たりにして心が躍りました。初めて食べたタイ料理はなかなか刺激的でした。ハーブ系の香草や酸味のあるスープが多く、友達と味の感想を共有しながら楽しく食べました。きのこだけは日本と同じ味がして、とても安心感を覚えました。



2日目 3.24

・バンコク副都知事表敬訪問

・ユースセンター

3日間通訳をしてくださるプイさんと会いました。とても明るく優しい方で、私たちはすぐにプイさんのことが大好きになりました。プイさんと出会えたことは、私にとって本当に大きなことでした。彼女は通訳という仕事を通してタイの素晴らしさだけでなく私の将来の夢につながる新たな世界を教えてくださいました。

バンコク都の副知事に会いに行きました。副知事は優しくフレンドリーな方で、日本から来た私たちを快く歓迎してくださいました。タイ語だと全く聞き取れなかったけれど、身振り手振りや表情で不思議と相手の気持ちは伝わっていたような気がします。プイさんの通訳を通じて話を全て理解できたとき、また相手が理解して相槌をうってくれたときがとても嬉しくて、このような瞬間に気持ちを伝えあう手伝いのできる仕事に魅力を感じました。途中から副知事が英語でお話ししてください、タイ語の時とは違い“直接”副知事の言葉で想いを受け取ることができたことに大袈裟ではなく本当に感動しました。英語の大切さ、素晴らしさを改めて実感したように思います。英語が話せる、は決してゴールではなくただの手段でしかない、でも確かに大切な道具であり今回はタイと日本とを繋ぐ架け橋であるのだと心から思いました。

午後はユースセンターへ行きました。タイの伝統的な踊りや楽器の体験をさせてもらいました。タイの踊りは日本の盆踊りに似ていましたが、手の動きが難しかったです。勇気を出して職員の皆さんに覚えてたのタイ語で沢山あいさつをすれば、その度に笑顔で返してくれてとても嬉しかったです。施設の職員の方の中に、トランスジェンダーの方がいらっしゃいました。とても綺麗ですねと英語で伝えるともものすごく喜んでくれて、一緒に写真を撮ってくれました。同僚らしき方にタイ語で、ねえちょっと写真撮って！この子ビューティフルって言ってくれたのよ!!的なことを言ってくれていました。たぶん。私はLGBTQに関心があり、タイはジェンダーのことに対して進んでいる国だと聞いていたので、実際に彼女と話げできたことは私にとってとても大切な経験になりました。



3日目 3.25

・ Fab Café TCDC

私たちが普段捨ててしまうペットボトルキャップをリサイクルして、新たな製品を作る活動を見せてもらいました。色とりどりのキャップを機械で粉々に碎き、溶かして固めておしゃれなボトルの蓋を作る体験をしました。



スーパーマーケットで買い物をしました。おすすめのお菓子を沢山買って、お土産を選びました。日本の商品も多く、トッポやモンダミンなど私たちの日常のものがタイの人々の生活にも溶け込んでいることを知り、嬉しくなりました。タイでの初めてのお買い物で、支払いの時に金額が聞き取れず、表示を見ても小数点があって全くわからなくて店員さんを困らせてしまいました何とか無事に全額払うことが出来ました。後になってサターンという新たなお金の単位を知りました。



夕食はホテルのバイキングでした。綺麗にライトアップされた豪華な空間でしたが、20時になると全ての電気が消え代わりにローソクが置かれました。アースタイムと言って省エネに取り組む時間だそうです。その空間もとてもロマンチックで素敵でした。一緒にタイへ行った仲間と沢山おしゃべりできて、絆がより一層深まった時間でした。



4日目 3.26

- ・植樹活動
- ・水上マーケット
- ・コー・クラン・コミュニティ
- ・アジアティーク

ベンジャキティ公園で植樹活動をしました。4年後に実がなると聞いたので、大学生になったらまた植えた木を見に行きたいです。

水上マーケットへ行き買い物をしました。お店の人がみんな優しくて、にこにこで接客してもらえました。おまけや値引きを沢山してもらえて、タイの人の温かさを感じました。

お昼は日本食を食べに行きました。見た目も味もしっかり日本で、お刺身も新鮮でとても美味しいものばかりでした。



七味唐辛子のパッケージに”NANAMI”TOGARASHI と書いてありました。パイさんに聞いたら、タイの友達みんなナナミ唐辛子と呼ぶと言っていて、やっぱり漢字は難しいなあと思いました。

コー・クラン・コミュニティで環境学習をしました。小さな島に暮らす人々が互いに協力して自給自足に近い生活をしているそうです。生ごみを燃焼して肥料にしたり、良質な油で作った洗剤を売って生計を立てていると聞きました。この取り組みが成功している唯一の場所だと知り、今までの生活から新たなことをはじめる難しさや住民みんなの協力の大切さを感じました。この場所に来る途中に通った川にはごみそのまま流れている場所が



あったり、道端に座り込んでいるおじいさんがいたりと貧富の差を目の当たりにしました。



夕食はクルーズ船で食べました。船に乗りながら有名な建物を沢山見ることができ、綺麗な夕焼けの写真も撮れてとても楽しい時間でした。

5日目 3.27

・ウィチュテット高校訪問

高校に到着すると、生徒のみんなが日本の旗を持って歓迎してくれました。吹奏楽の演奏やタイの踊りで豪華に迎えてくれて嬉しかったです。最初はバディの子に英語で話しかけても全く伝わらず心が折れかけましたが、単語で質問したり、タイ語を教えてもらったりして少しずつコミュニケーションが取れるようになりました。タイなまりの英語と日本なまりの英語の発音が違うらしく、英語ではほとんどやり取りができませんでした。ですが、移動



するときに肩をやさしく触って誘導してくれたり、灯籠の作り方を実際に作りながら教えてくれたり、言葉が伝わらなくても同じことで笑い合えて、想いを共有出来たことが嬉しかったです。最後の自由時間に、バディの子に日本語を書いた紙を渡して一緒に発音を練習しました。何回も聞き返して、正しい発音で言えた時は私も本当に嬉しくてハイタッチしました。相手の子もとびきりの笑顔で笑い

かけてくれて、心がやっと通じた様な気がして幸せでした。私もタイ語の発音が分からなくて何回も繰り返したりしていたけれど、正しい発音を根気よく教えてくれました。

日本へ留学に来る子たちがしてくれる日本語でのあいさつ、簡単なものだとしても私たち日本人がちょっとあったかい気持ちになるあの一言二言が、その子にとってどれだけ難しくくてどんなに練習したものなのか、自分がそちら側になって身に染みてわかりました。自分の英語が伝わらないというショックは大きかったです。だからと言って全くコミュニケーションが取れないわけではなくて、身振りやスマートフォンの翻訳機能、タイ語日本語色々なものを使っていくらでも気持ちを、同じ時間を共有できるのだなと思いました。

学校でタイの民族衣装を着せてもらいました。一見ズボンのように見えているのですが1枚の大きな布からその形を作っていて、一人で着るのは相当難しそうです。金色に輝いていてとても綺麗な服でした。この写真はバディの子が撮ってくれました。

宝物の1枚です。



6日目 3.28

- ・お寺
- ・豊田合成アジア見学

ローカルなお寺を見に行きました。祭壇には国王の写真よりも上の段に仏像が置いてあり、タイではお坊さんの位が一番高いのだと分かりました。熱心な仏教徒の多い国であるタイのお寺を実際に見ることが出来て良かったです。

豊田合成では工場を見学させてもらい、現地の職員の方とディスカッションをしました。社員の皆さんがそれぞれ自分たちで、どうやったらより良い仕事ができるか考えて働いていて凄いなと思いました。我々は手助けをしているが、あくまでタイ人の社員のみんなが主役である。という副社長の言葉が印象的でした。日本人社員の方が、タイの人々は自分たちを温かく迎え入れてくれてとても仕事がしやすいと話していました。私もタイの人々のおもてなし精神は沢山体験して感じていたので共感することばかりでした。

タイでの最後の夕食は、みんな別れを惜しんでたくさん写真を撮りました。夜遅いのにバンコク都庁のトンさん、ペンさん、通訳のプイさんが空港までお見送りをしてくれました。最初から最後まで、タイの人々は皆本当に優しく温かくて、その人柄に何度も救われました。



初めての海外、それも1回しか会ったことのない人たちと1週間過ごすことは不安も大きかったです。こんなにも仲良くなれて、本当に嬉しかったです。一瞬で過ぎていった1週間だったけれど、振り返ると毎日が濃くて沢山の貴重な経験をさせてもらい、沢山の素敵な人々に会うことができ、一生忘れられない大切な思い出になりました。日本に帰って、今まではただの日常だった全てが新鮮に見えました。本当に、世界が変わりました。

どれだけ耳で聞いても、やっぱり自分で体験しないと分からない、感じられないことは沢山あって、今回の派遣事業で一番感じたことはひとりの温かさと英語の大切さでした。全く聞き取れないタイ語を浴びる中で、英語で話しかけられて安心するという感覚を生まれて初めて体験しました。日本とタイ、異なる2つの国を繋いで直接思いを届けられる手段はやはり英語で、英語を使えるようになってようやく深いコミュニケーションが取れて、視野が広がり新たな出会いも生まれるのだと分かりました。

副知事に質問はありますか？と聞かれたときや Fab カフェでの質問タイムでどんどん手を挙げて、堂々と英語で質問をしている仲間たちの姿に刺激を受け、普段はなかなか積極的に行動できない私も勇気を出して手を挙げてみたり、自分自身もまた一歩成長できたような気がします。

また今回の活動で、県庁で働く仕事や通訳の仕事など多くの国を越えて働くお仕事に触れることが出来ました。私は将来そういった英語を使う仕事に就きたいと考えていたので、自分の将来をより明確に思い描くきっかけになりました。

引率の先生方、県庁の職員の方、そして一緒にタイへ行ったメンバーのみんな、短い間だったけれど共に色々なことを乗り越えてたくさんの思い出を作ることができ、私はみんなのことが大好きになりました。こんなにも素敵な1週間を過ごせたのは皆のお陰です。今回学んだ大切なことを忘れずに、将来に活かしていきます。



このバンコク都派遣事業に参加できたことに感謝しています。
本当にありがとうございました。

バンコク派遣報告書

日付 3/23~29

豊田北高校 深谷勇斗



1 日目

日本時間 11 時頃に飛行機が離陸し、6 時間のフライトの後、タイ時間 15 時頃に着陸しました。(時差 2 時間)

この日の夜ご飯はホテルでタイ料理を食べました。初めてのタイ料理に挑戦しましたが、辛い料理が多く完食は難しかったです。

ディナーの際に、バンコク都庁の方々に英語での挨拶と自己紹介をしました。



2 日目

バンコク都庁に行き、副都知事に挨拶をしました。バンコクでの環境問題に対する取り組みなど色々なことを聞きました。ユースセンターでタイダンスを体験しました。また香水作り、お面作りなど、ユースセンターではタイの文化に触れる機会が沢山ありました。

3 日目

Fab café という環境に関する活動をしている施設に行きました。世界中に拠点があり、日本にも活動拠点があるそうです。ここではペットボトルのフタの再利用法について学び、

実際にペットボトルのフタを溶かして瓶のフタを作りました。



ら午後にはタイのスーパーで買い物をしました。生肉が包装無しでそのまま売られていました。日本では見られない光景に驚きました。



4 日目

午前中は、公園で植樹活動をしました。この公園には日本では見るできないような植物や果物が多くありました。

午後にはコー・クラン・コミニュティという運河内の小さな島に行きました。ここの住民は自給自足に近い生活を送り、廃棄物を減らし、環境保全に努めています。具体的には、廃棄予定の食用油を固めて石鹼にしたり、生ごみを燃料に変換したり、ペットボトルの蓋を溶かして容器を作ったりしています。この島ではこのような日本でも見習うべき事が沢山行われていました。

生ごみをエネルギーに変える装置



ペットボトルのフタからできた容器とその機械

5 日 目

ウィチュティット校に訪問し、現地の高校生と交流をしました。この高校の中にはカフェがあり、生徒はここで勉強の休憩をしたり、またバイトをしてお金を稼いだりしています。ここではチェアボールというバスケットに似たタイの伝統スポーツをしてタイの高校生と遊びました。

その後タイの高校生達によるムエタイを見学し、昼ごはんにはタイ料理であるパッタイを食べました。薄い卵焼きの中に麺が入っていて、日本人でも食べやすく美味しかったです。





6 日 目

午前中に寺院を訪れました。寺の壁に掛けられている写真の中にある僧侶はサングラスをかけていました。綺麗で神秘的な空間でした。





寺院訪問後、サービスエリアに立ち寄った際にマリファナの店を見ました。タイではマリファナが合法であるそうですが、タイ人の中でもマリファナ使用の賛成派、反対派とあるそうです。



午後は車の部品を製造する豊田合成アジアという会社に訪問しました。タイの現地人を雇い、タイの人達が技術を開発しているそうです。現地での「人づくり」の大切さを社長、副社長から教わりました。



7日目

タイの空港から、6時間のフライトの後日本の空港へ無事到着しました。

〇まとめ

初めてタイを訪れて、タイは日本よりも「密度」が濃く、良い意味で「乱雑」であるという印象を受けました。街中を走る車の車間距離、建物の配置、マーケットでの物の売り方など、全てにおいて日本より密集していて乱雑でした。この文化はタイの人々の大らかでラフに生きようとする性格を表しているように思えました。

日本ではこのタイ文化を体験することが出来ないで、タイ派遣はとても楽しく、毎日が刺激的で面白いものとなりました。この派遣を通して、さらに他の国の文化に触れてみたいと思うようになりました。



未来への第一歩

| 愛知県立西尾高等学校 | 大葉凌也

旅の目的

私は異なる言語、文化、生活様式の中で、自分自身がどう適応していくのかを知り、自分の新たな可能性を発掘したいという思いで今回の派遣に臨みました。

タイでの生活

およそ6時間のフライトを終え、空港から出た瞬間の第一印象は”日本車が多い”でした。5車線ある高速道路で渋滞が頻繁に起きていた際、大半が日本企業の車でした。屋外では常に排気ガスのような独特のにおいがしていて、発展途上国が抱える大気汚染問題が浮き彫りになっていました。また、タイの首都バンコクに滞在していたのですが、ビル周辺の裏路地や河川沿いなどにはスラムがあり、信号待ちの際には幼い子供が道路に入り込んで物を売りに来るなど、様々な場面で経済格差を感じました。



しかしタイの人たちは、とてもフレンドリーで笑顔があふれていました。その背景にはタイ、主にバンコク都民に寄り添った政治にあると思います。日本では国民と行政機関には壁のようなものがありますが、バンコクではあまり感じませんでした。副知事と対面した際、日本の政治家ではあまり感じられない、親しみやすさを感じました。また、同じ目線で会話してくださり、最後には2ショットまで撮ってくださいました。このような国民に親身に向き合う姿勢や行動力が、幸福度ランキングの向上や国の発展、活性化につながっていると思いました。

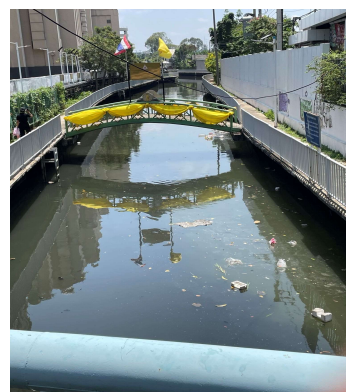
タイの食文化

まず、初日のディナーでタイの洗礼を受けました。前菜と思い、なにげなく口にしたりしたイカと唐辛子の和え物に派遣メンバーの大半が涙を浮かべました。現地の人でも口にしない人がいるほどの辛さレベルだそうです。最終日には辛い物が徐々においしく感じるようになり、慣れが克服のカギだと気づきました。他にも豚肉をナツメグなどの香辛料で煮込んだものや、マンゴースティッキーライスというデザートのようなものなど、タイならではの食事を楽しみました。商業施設に入ると日本食のお店が多く、食事をしている方々が箸を当たり前のように使っていたのには衝撃を受けました。



環境問題に対する考察

現地の人々の生活を間近で見て、タイが抱える環境問題の多くは、国の教育水準と国民性が大きく関わっていると思いました。最も印象的なのは、家庭ごみをゴミ箱に捨てるという概念が少なく、川に捨ててしまい、水質汚濁に繋がってしまうこと。また、生活排水なども同様に何も処理をせずに河川に流している地域も多くありました。環境問題を解決するために世界各国が総力を挙げて対応しているが、どれほど優れた政策を提示するよりも、一人ひとりの環境に対する意識を改善していくことが最善策であると思いました。



タイの英語教育について

高校訪問をした際、約8割の生徒は英語を流暢に話していることに驚きました。それだけでなく、訪問先の先生が、学校に通っている高校生なら日常会話レベルなら話せて当然だと、言っていたこと。先進国の日本はどうであるか。なぜ話せるのか質問したところ、「英語は言語だから、授業では座学よりも話すことを念頭に置いて行っている。文法や単語を学んでも話す練習をしないと話せるようにはならない」と返ってきた。

日本人が英語を話すのが困難なのは、英語教育の方針の違いや自分の感情を表に出す事をためらうからだと感じました。この先、母国語以外の多言語を習得するとき、ためらわずにトライして話すことを、意識していきたい。

旅を終えて

普段の日常とはかけ離れた土地で生活し、貴重な経験することで、視野が広くなり、物事に対する見方が大きく変化したと思います。そして、もっとたくさんの国や文化に関心を持ち、自分の目で確かめ、色々な人と出会う中でもっと成長したいと強く思うようになりました。この先、自分の目標に向かって進んでいく際



今回の派遣を通して学んだ「**一歩踏み出す勇気を持ち、行動できるか**」を忘れず、もっとビックな人間を目指して努力しようと思う。

2023 バンコク都派遣報告書



愛知県立刈谷北高等学校

齊藤優太

〈タイでの食事〉

僕は辛い物が苦手なため、タイの食事には不安がありました。しかし、辛くなくおいしいご飯がたくさんありました！！

最初の食事が食べたことのない香辛料の味付けで食べられませんでした。今後の食事は大丈夫か不安になりましたが・・・



**↑ 中国料理とタイ料理がミックスされた、
とてもおいしい料理でした。**

**日本の飲食店がた
くさんあり、タイ
にいることを忘れ
そうになりました
た！！**



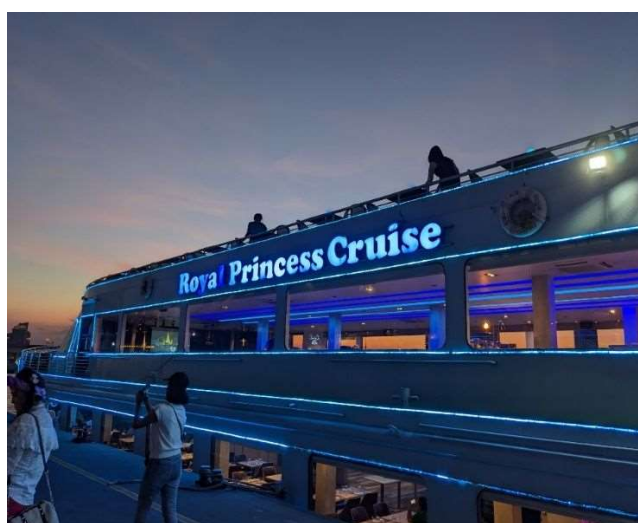
**タイ風たこ焼きは
タロイモなどの珍しい
材料などを使います。
はじめてタロイモを
食べましたがとても
おいしかったです。**

〈この派遣ならではの体験〉

- Asiatiqu クルージングディナー



久しぶりのクルージングで
人生の思い出になる
イベントでした。
風がとても
心地よかったです。



・バンコク都訪問



**愛知県の代表として挨拶をさせて頂いた
ので緊張しましたが、副知事がとてもフレ
ンドリーで親切な方で緊張もほぐれ、楽し
い時を過ごしました。**



**お土産に
かわいらしい
象をあしらった
バッグを
頂きました！**

・ 現地の高校訪問

言葉も文化も違う同年代たちとの交流は、楽しみとともに不安もありましたが、様々な交流をしていくうちに薄れていきました。タイには、親日家(日本の文化が好きな人、日本語が少し話せる人)もたくさんいて、フレンドリーに接してくれました。現地の高校生は、英語を話すことができる生徒が少なかったですが、翻訳機などを使って、交流を深める事が出来ました。

また日本の高校と違うと感じた点は、訪問した高校では、職業体験を行うことが出来ることです。授業後などに校内にあるカフェテリアでバイトをしたり、カリキュラムの中で職業体験を積極的に取り入れています。高校生活の中で、社会経験を積むことができることは、素晴らしい取り組みだと思

いました。

日本の高校でも、職業体験を通じて社会と関わりが持てる体験ができれば、職業選択がイメージしやすいのではないかと感じました。



←タイダンスやムエタイなどで盛大な歓迎会を開いていただきました。

→日本側からもけん玉やめんこなどの日本文化を体験してもらいました。



〈バンコクでの気づき〉

- ・自動車による排気ガス

まず空港を出て日本では感じたことのない、呼吸をする度に、せき込んでしまう程の環境(空気の汚さに)に驚きました。その後、バスに乗り移動していると、すぐに理由がわかりました。バスの周りは常に車やバスに囲まれ、空港付近は常に渋滞していました。さらに平日の夜は24時を過ぎても車の音は鳴りやみませんでした。

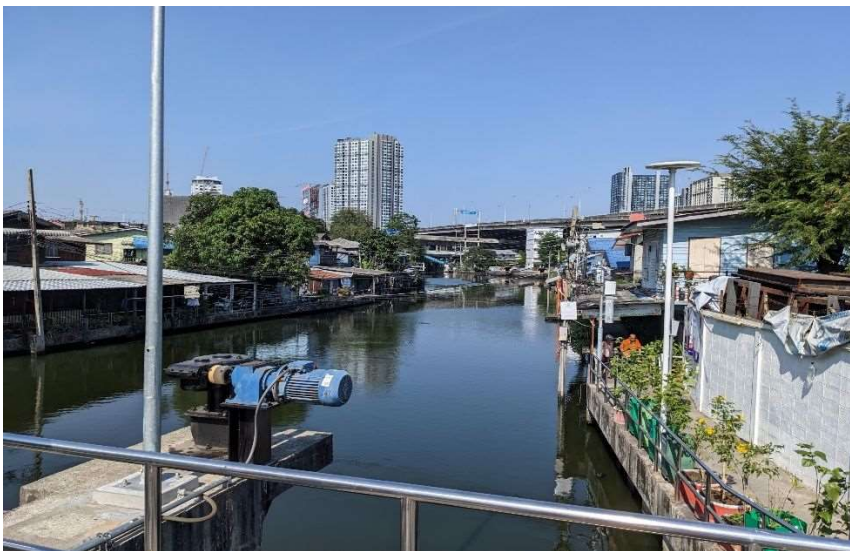


また今回、訪問させて頂いた豊田合成にて、今、バンコクを中心としたタイでは、電気自動車が普及し始めていること、普及率は2割程度ということで以外に多いと感じました。

・環境問題

(コー・タラン・コミュニティについて)

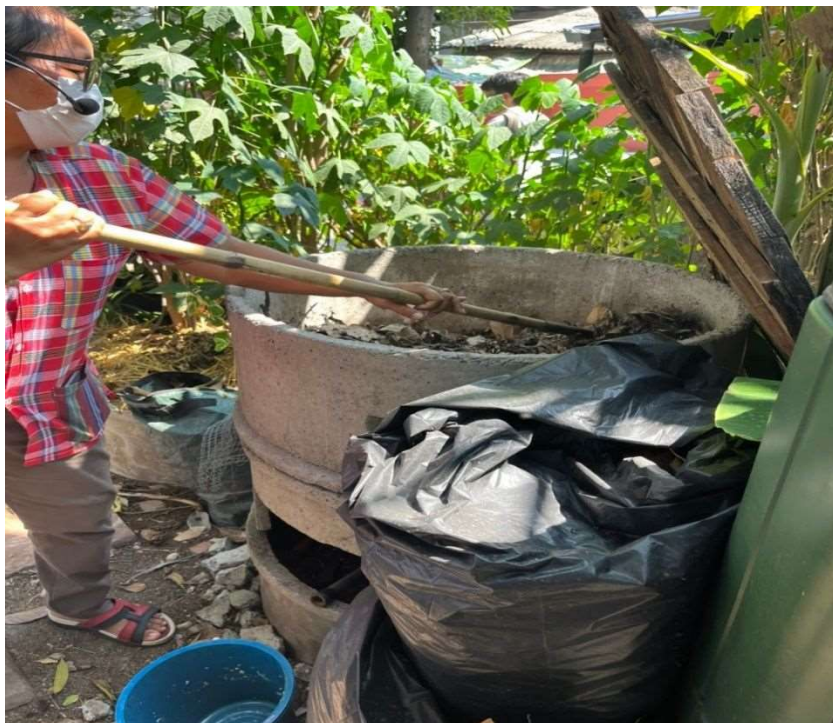
まずそのコミュニティが川により分断され、
周りの地区と独立していることに驚きました。



↑このコミュニティの全体図

このコミュニティの中では住民が出したごみを再資源化し、またそれを再利用しながら生活しています。具体的には、生ごみを集めて作るたい肥や廃棄物から作る石鹸、シャンプーなどがあります。

これらの取組みのように資源を大切にしながら生活していく姿を見習わなければならないと思いました。



←たい肥作りの様子

・ 日本産とする産地偽装

地域のスーパーに行き気づいたことは、日本産ではないにもかかわらず日本産と偽装して販売されていたことです。タイをはじめ海外では、日本産のものは安全安心で人気があるそうです。日本国内でも高価なもの、例えばシャインマスカット(ぶどう)、あまおう(イチゴ)、佐藤錦(さくらんぼ)等を外国で購入しようとするとな当然のことながら、日本の価格よりもさらに高い価格になってしまいます。そこに目につけた中国などが産地を偽り低価格で販売もしています。

日本国内でも産地偽装は、度々問題になっていますが、安全安心な日本産のものが海外でも正しく販売されることを望みます。



『おいしい』と書かれているが中国産の梨。
写真の左上には写真の価格よりもずいぶん
高い価格で日本産の梨が販売されていた。

〈まとめ〉

今回初めてタイに行き感じたことは、貧富の差が目に見えるほど大きいということです。高層ビルや商業施設から一歩路地に入ると、スラム街のような地域がたくさんありました。SDGsにもある通り、一部の人が利益を上げ成長し、他の人は置き去りにされることはあってはならないことです。しかし多くの国々では、然るべき対応ができていません。そこへ他の国々からの支援が必要だと思います。今後このような活動が広がることを期待したいと思います。

また高校、町の人との交流などで価値観や文化の違いを感じました。その違いを体感することによって自分の視野が広がりました。しかし僕が感じた違いは、とても広い

世界の中の一部にすぎません。今後、世界の国々へ行き、今回のような体験を重ねて、人生をより豊かなものにしていきたいと思います。

今回のバンコク派遣で様々な貴重な体験をさせて頂きました。これらの経験を活かし、今後も海外と深く関わりをもって暮らしていきたいとより強く感じるようになりました。日本の良いところは、外国の方に伝え、日本が直すべきところは、変えられるよう行動したいと思いました。

今回のバンコク派遣にご尽力いただいた愛知県職員の皆様、バンコク都職員の皆様をはじめ現地で受け入れて頂いた方々に厚く感謝申し上げます。



愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業報告書

2023年3月23日～3月29日 愛知県立安城東高等学校 田口慶太

はじめに

今回バンコク都派遣に応募した理由は、以前バンコクに家族の都合で約3年間住んでおりそこで様々な体験をさせて貰ったが、もっとバンコクの事を学びたいと思ったからです。また、これに参加する高校生たちと共に海外で過ごすことに面白味を感じ、新しい考え方が生まれるのではないかと思います、この派遣を希望しました。

Day 1

中部国際空港に、みんな遅れることなく集まることが出来ました。

このメンバーで約1週間過ごすと思うと、わくわくと同時に緊張もありました。

タイは小中学生のころに3年ほど住んでいましたが、高校生になって行くのとは

4 感じ方が変わってくるのかもしれない期待を込めて、楽しんで行こうと思いました。



約6時間かけてバンコクに到着しました。スワンナプーム国際空港では、

バンコク都のスタッフの運転手がホテルへの出発準備をしてくれました。

ホテルに着くと夕食の準備がすでにされていて、タイ料理がずらりと並んでいました。

久しぶりのタイ料理で懐かしい味を感じ、「あ、バンコクに来たんだ」と

思わせてくれるような1日でした。



Day 2

今日は、バンコク都の副知事訪問と「ルンピニーユースセンター」の訪問がありました。バンコク副都知事の訪問はとても緊張したけれど、それぞれみんな英語やタイ語を使って、挨拶をすることが出来ました。また、最後に握手することができたことにタイの方の優しさを感じました。



午後からはユースセンターでタイの文化体験をさせて貰いました。例えばタイダンスや音楽、伝統工芸品を学びました。個人的に難しかったのはタイダンスで、手と足の動きが複雑で混乱しました。夕食は「サイアムスクエア」という場所でしゃぶしゃぶを食べました。日本にあるような味もあれば、海外独自の味があったりもしました。また、そこには様々な種類のお店が並んでいたり、バンコクの電車である「BTS バンコク・スカイトレイン」も走っていました。



Day 3

今日は終日「Fab Cafe TCDC」という廃材を再利用したものづくりワークショップで、プラスチック製品について学んだり、実際に体験しました。ペットボトルのキャップを砕き、ビンのキャップを作りました。リサイクルを重視しており、日本では見たことのない機械などがありました。

また、VR を利用して現実の空間に部屋を作り床を掃除してみるという非常に面白い体験をしました。みんな VR をつけたら、楽しそうに掃除していました。



Day 4

今日は「ベンジャキティ公園」での植樹活動やタリンチャン水上マーケットで買い物、「コー・クラン・コミュニティ」へ訪問しました。

この公園はバンコク都の都市部に位置する国立公園でバンコクの新景観スポットであり、たくさんの樹木が植えられていました。ここで自分たちも植樹体験をさせて貰いました。完全に成長しきるのに 20 年ほどかかると聞き、とても驚きました。



水上マーケットでは、ローカルな買い物をすることが出来ました。

様々な人が好きなものを好きな値段で売っており、特に値引きという日本にはないことも出来て、英語やタイ語を使って会話をすることが出来ました。

また、もち米にココナッツミルクをかけてマンゴーと一緒に食べる「マンゴーステッキールイス」というデザートも売っていて、とても美味しかったです。



「コー・クラン・コミュニティ」では、環境学習を行いました。

ここでは自給自足に近い生活を送っており、廃棄物のリサイクルを行っていました。



夕食は「アジアティーク・ザ・リバー・フロント」からチャオプラヤ川のクルージング船に乗り、ビュッフェスタイルで夕食を食べました。

クルージングは外での風がとても気持ちよく、みんなと様々な写真を撮ることができてとても楽しかったです。また、クルーズ船から「ワット・アルン」を見ることが出来ました。



Day 5

今日は、「ウィチュティット高校」を訪問しました。

ここでは、活動内容の説明と見学を行いました。見学では現地の高校生たちがタイのお菓子やカフェラテを作ってくれ、とても美味しかったです。

また、現地の高校生と英語やタイ語を使ってお互いの好きな音楽などを話したりしました。



午後からタイのスポーツであるムエタイの見学をしました。

目の前で迫力あるパンチやキックをしていました。

また僕たち生徒から、日本の伝統遊びを披露して一緒に遊びました。

特にメンコ遊びが難しく現地の高校生のほうが上手でした。

最後は、スポーツ交流でチェアボールを行いました。

チェアボールはバスケットによく似たスポーツですが、ゴールを各チーム一人持って、椅子の上からボールをすくうようにゴールを動かして得点を決めるスポーツでした。

最終的には同点で終わり、現地の高校生ともっと仲良くなれました。



Day 6

今日は、豊田合成アジアに訪問しました。

この会社はゴムを使った車の部品を製造しており、トヨタ自動車だけでなくホンダやスズキなどの日本国内すべてのカーメーカーに部品を提供しています。

また国内だけでなく海外カーメーカーにも部品を提供しており、豊田合成アジア会社の凄さを物語っていました。実際に部品を作っている工場を見学させて貰ったり、この会社で働いているタイ人の方からお話を聞けました。

夕食は最後のタイ料理となりました。今回の派遣でたくさんのタイ料理を食べさせて貰いましたが、小学生の時に食べられなかった「トムヤムクン」を食べられるようになり、タイ料理の美味しさを改めて知ることが出来ました。

また、20時頃にスワンナプーム国際空港へ向かいました。

今回の派遣が終わってしまうと思うと、とてもさみしい気持ちがこみあげてきました。

空港で今回の派遣でお世話になったスタッフの方とお別れになりました。

この派遣がなければ会えなかった人たちに感謝し、なによりこのメンバーで行けたバンコク都派遣は最高でした。



Day 7

深夜に飛行機に乗り、中部国際空港へ向かいました。

飛行機の中で一人夜な夜な、お世話になった訪問先への寄せ書きを台紙に貼り付けていました。

深夜3時くらいに寝落ちしかけて作業を中断して寝ようとしたのですが、1時間後に朝食の時間だと電気がつき、たたき起こされました。深夜便はかなりきついものでした。

午前8時くらいに中部国際空港に到着し、派遣者全員無事に帰ってくる事が出来ました。

まとめ

僕は今回の派遣で、改めてタイの文化や習慣を肌身で感じる事が出来ました。

そしてタイの方たちの手厚い食事や生活のサポート、現地の高校生との交流でタイ人の優しさを知ることが出来て、タイ・バンコクがもっと好きになりました。

また、国際社会で必要なお互いの文化を理解し、尊重しあえる考え方をより一層学べました。今回の派遣を通して僕が体験したことを、日本のみんなにもたくさん知って貰いたいと心から思います！



みんなありがとう！！！！ Thanks to all involved!!!

愛知県-バンコク都 高校生交流派遣事業報告書

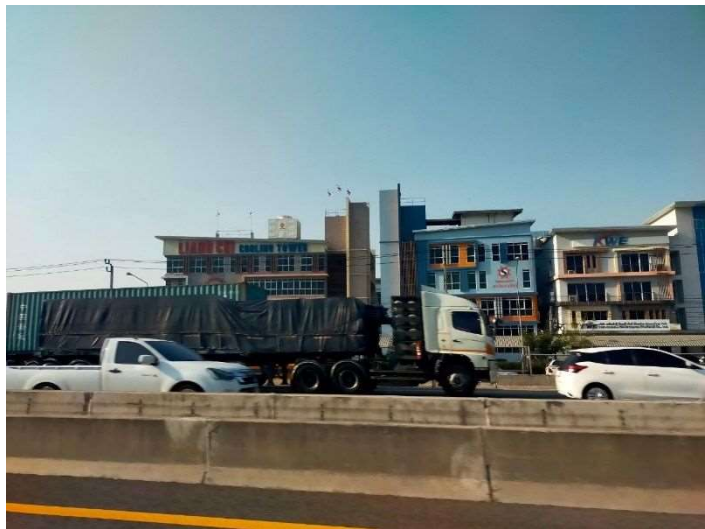
Aichi-Bangkok High School Exchange Program Report

愛知県立豊橋東高等学校 近田惺南

Day 1

スワンナムプール空港到着。空港の外に出ると気温 32°C、蒸し暑い風が吹いていました。この日は現地の人でも暑いと感じるほどの天気だったそうです。

空港を出発し街中を車で走っていくと、交通量が多く車間距離がとても狭い上、バイクが自動車の間を次々に通り抜けていくことに驚きました。また走っている車はトヨタ、ニッサン、ホンダと日本車がほとんどでした。これを見ただけでもタイで日本の企業が進出していることが想像できました。



車窓から見えた建物は東京のようにガラス張りのビルではなく、レンガ造りのカラフルなものが多く新鮮でした。

ホテルに到着すると夕食にタイ料理が用意されていました。



スパイスの効いた豚肉のカレーや唐辛子の入ったエビとイカのサラダ、ココナッツミルクとトムヤムのスープなど、タイに来たと感じさせる料理ばかりで、どれも美味しかったです。

また、スイカやパイナップルのようなフルーツが多く出てきたり、パラパラしたタイ米がメインで食文化や気候の違いも実感しました。

Day2

車で観光名所付近を通りながら都庁へ向かいました。白い壁から少し見えるエメラルド寺院（ワット・プラケオ）の塔の一部はガラスでできた装飾が陽の光を反射して輝いていて綺麗でした。

都庁では副知事との短い対談を行いました。バンコクの実情への取り組みとして公園を街中につくり植樹による緑化を推進することや、水素バスの導入など、都市と自然が融合した街づくりをしていることを知りました。



午後はユースセンターを訪問しました。世代を超えた文化継承が行われる施設で、タイの伝統舞踊、音楽、工芸品づくりを体験しました。特に伝統舞踊は盆踊りに似ているものの手の



形が独特な仏教を感じさせる踊りで、真似るのが難しかったです。このような施設を訪れてみて、日本でも伝統を次世代に伝えていけるようなイベントが行われているのかどうか興味を持ちました。

Day3

この日は一日 Fab Cafe での活動でした。Fab Cafe は、日本では東京、京都、名古屋に拠点を置くクリエイティブコミュニティです。カフェにはものづくりの設備が併設され、クリエイターや開発者が集まり活動できる場となっているそうです。

今回は環境に関わる問題からビジネスについて学び、廃材プラスチックと瓶を使い、実際に環境にやさしいボトルを作りも行いました。ペットボトルキャップから作り出す瓶の蓋は自分で色を選び、成形したものをやすりで削ってできた物で、環境に優しく世界で一つだけのものを作ることができました。

またここではカフェにいるのかのようにコミュニケーションを楽しみながら気軽にものづくりができたのが斬新で新しい経験でした。

環境問題を学び、エコ製品を作ると聞くと堅苦しく難しい印象があったのですが、この

ように問題解決に向けた取り組みを身近に感じ、楽しみながら参加し学習できる場は世の中にまだまだあり、これからさらに注目されるだろうと思いました。



Day4

ベンジャキティ公園での植樹活動。公園からは高層ビルが周りに立ち並んで

いるのが見え、都市の中に一つの小さな森があるようでした。

高層ビルが立ち並ぶ日本の大都市を考えると、バンコクの様

々な自然でエコな景観作りも必要なのではないかと感じまし

た。また日本では、公園は子供のための場所などのイメージ

があり、大きくなってからはあまり行くことがないけれど、

バンコクではベンジャキティ公園が都の中で一番有名で、若者のフォトスポットでも
あると聞いて驚きました。バンコクでは公園がすべての世代に浸透しているのだと感じ
ました。

次に訪問した川にある小さな独立した島のコミュニティでは独自のゴミのリサイクル、
活用法を学びました。



特に、食べ終わったお菓子などの袋を再利用して仏壇にお供えする造花の置物をお年寄りが手作業で作っていたのは初めて見たのでとても衝撃的でした。



新しいビジネスとしてこのコミュニティで実践されているようにゴミから製品を作り、個人や地域に利益がもたらされるシステムはこれから環境にやさしい地球を目指す上で必要になってくると思いました。

ウィチュティット校訪問。タイのおやつ作りや伝統衣装を体験しました。おやつはたこやきのような見た目のカノムクロックというもので、ココナッツミルクと野菜が合うやさしい味のおやつでした。伝統衣装は、テレビで見ていたような大きくカラフルな布を巻き付けたもので、ズボンの形をしていたがとても動きにくくさらに暑かったです。また、1人ずつバディが付き案内をしてくれたけれど、身振り手振りのコミュニケーションを通して、言語だけではない人との繋がりを感じることができました。昼食のパッタイホークアイは、平たいそうめんのようなもちもちした麺が印象的でした。タイでは茹でたエビを使った料理が多かったように感じられました。またカオニャオ・mamアンはご飯も甘く、マンゴーとのバランスが最高でもう一度タイに行ったら食べたいと思いました。



Day 6

この日は半日、豊田合成を訪問しました。現地の人を中心とした職場づくりについてのお話を聞いた時、日系の企業だから日本人の方が地位が上だという考えではなく、皆が対等な立場で協力しながらその国の特色を持った職場環境というものが求められるのだと初めて学びました。また、現地の従業員の方々にお話を聞いたら日本に興味を持ってくださっている方が多く、タイでは日本の物や音楽が浸透していると聞き嬉しく思いました。



豊田合成に行く前に地域の寺院に少し寄りました。外観は真っ白で綺麗な教会のように見えたが、中は金色に輝く仏像と王の写真が飾ってあって、日本の寺院と全然違って新鮮でした。



今回タイへの交流派遣事業として 1 週間過ごしてみて、タイの人々は温かく盛大に私たちを歓迎してくれて、日本のようにおもてなしの精神のある国なのだと感じました。また、英語や簡単なタイ語を使ってコミュニケーション

をしていた中で、なんとか伝えようとジェスチャーを交えながら言語だけでなく表情、体を使ったコミュニケーションをできたことが私にとって大きな経験となりました。

この一週間で私は、日本で過していたら知ることはなかったような新しい世界を知り、言語や文化を通じた国際交流にもっと興味を持ちました。そしてなにより、この交流で出会い私にたくさんの気づきと新しい経験を与えてくれた方々に心から感謝をしています。



国民による政治

御津あおば高校 川北ルキアン

今回のバンコク派遣では、英語力の向上だけでなく、自身や世界に対する価値観が大きく変わる体験をしました。現在、世界ではさまざまな問題があります。それらは新聞やテレビなどで知ることができですが、実際にバンコクを訪れることで、改めて自分の価値観が変化するのかどうか試してみたいという思いが大きくなり、バンコク訪問を決意しました。

しかし本当に聞きたい事が聞けるのだろうかと滞在中も常に不安でしたが、その不安があったからこそ、自分を甘やかすことなく常に自分を律することができ、バンコクの副知事であるサノンさんにタイの中での問題や原因と、その改善方法が聞けました。タイでは貧富の差も激しく環境問題も深刻になっています。これらによりデモが多発することもありました。サノンさんによると、『国を変えるために、まず第一歩として、国民の声を聞き、変えるべきことを把握することです。そして、そこから我々政治家の仕事です。』とおしゃってくれました。環境問題に取り組むために、公園で植樹活動などを行っていました。また、私たちが訪れた Fab Cafe や koh klang community などでは、主にプラスチックや資源のリサイクルを行っていました。Fab Cafe では bio テクノロジーを使っています。コミュニティでは水を綺麗にするためにそれぞれの家で廃棄物を集めてそれをリサイクルしエネルギーや肥料に使っておいました。ここでの共通点は、知事からのサポートがあったからこそ実現ができたということです。サノンさんは将来タイが、綺麗でとても発展している国になるやめに日々努力をしています。国民の声を聞くために地域のコミュニティなどに通ったり、自ら買い物をしたり、ランニングをしながらフェイスブックなどでライブもしています。これらは他の国ではありえないことです。私はサノンさんのこの取り組みを聞き感動しました。なぜなら、これほど近くで国民の話を聞き、実行する国が少ないからです。私はこのような体験ができてとてもうれしかったです。やはり自分の考えを変えたり視野を広くしたりするにはその国を訪

れるだけでなく中身を知るために地域の人々と関わったりすることがとても大切だと思いました。今まで見たことのない建物や聞いたことのない言語でした。ですが訪れる事でその文化に触れて人々の生活を見ることができた事で、私はもっと色々な国の文化、言語と考えに興味を持つようになりました。またいつかバンコクを訪れる機会がありましたら迷いなくいきます。



「愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業」参加者アンケート結果

1. なぜ今回のバンコク都派遣に参加しようと思いましたか？ ※複数選択可

国際交流に興味があるから	13名
英語力・コミュニケーション力を向上させるため	12名
タイに興味があるから	4名
家族や学校の先生に勧められたから	1名
その他（自由記載） ・環境問題に興味があるから ・自分の視野を広げたかったから	各1名

2. それぞれのプログラムの感想を記入してください。

(1) バンコク都庁・副知事への表敬訪問

- 副知事へのインタビューを通して、バンコクの行政や環境への取り組みを知れたため、街並みを車から見たり環境施設を訪問したりする際に、インタビューの内容を思い出しながらお話を聞くことができ、さまざまな気づきも生まれた。
- 副知事への質問の中で、愛知県とバンコク都の具体的な繋がりが理解できた。
- コロナウイルス蔓延後はじめての交流事業で重要性を実感した。
- 少し緊張しましたが、つたないながらも、タイ語で挨拶できたのでよかったです。
- 日本とは違い、都庁の職員の方々のフレンドリーさや、距離を感じさせない立ち振る舞いが社交的で笑顔溢れている国民性に表れていると思いました。
- とても緊張したが、日本とは違い少しフランクな感じだったのですぐに馴染めた。
- テレビでしか見た事がないような会談に参加し、とても誇らしい気持ちになった。
- このような機会でないとバンコクの副知事と会うことはないと思うのでよかったです。とても歓迎してくださっていると感じたので、期待に応えるためにもこれからの活動を積極的に頑張ろうと思えた。
- 副知事に会える事に凄く貴重な体験をさせていただきとても緊張しましたが、タイ語を少しでも使って挨拶できた事はとても良かったです。
- 副知事は優しくフレンドリーな方で、どんな質問にも丁寧に答えて下さり嬉しかった。環境のこともしっかり考えて自分の意見を持っているところが格好良かった。
- タイ語だと通訳の方を通じてしか意思疎通出来ないけれど、副知事が英語で話してくれた途端、直接副知事自身の言葉でメッセージを受け取れることを実感して、英語のツールとしての大切さを痛感した。
- 愛知県とバンコク都にとって、とても重要な研修に参加させて頂いていることを実感した一つの機会でした。
- 副知事もとても親切な方で、私が想像していたより、はるかに私たちと同じ目線で接してくださって、とても嬉しかったです。日本とタイ両国のたくさんの人がたくさんの協力を寄せていることにより、成り立っている研修であることを初日に形として気付けたことは重要なことだったと感じました。ありがとうございました！
- とても緊張しましたが、タイ語での自己紹介をしたり、中々出来ない体験が出来て

良かったです。

- ・こちらからいろんな質問をし、どんな事に取り組んでいるのか又その為になんか行動を実行しているのかが聞けてとっても満足しました。
- ・タイでの環境についての取り組みを聞いて良かったです
- ・とても緊張したが、副知事もバンコク都庁の皆さんも暖かく迎えてくださったおかげで、少し不安がやわらいで自己紹介もすることができた。愛知県とタイとのつながりも話を聞きながら詳しく知れてよかった。こちら側の質問にも丁寧に答えてくださったので、とても勉強になった。環境に対する政策も知れた。

(2) ルンピニューースセンター・タイ文化体験

- ・実際にジェスチャーを交えてダンスや楽器を教えてもらい体験できたのが良かった。英語は通じなかったが、言葉ではなく文化で繋がった気がして新鮮だった。
- ・タイの文化をローカルの視点でレクチャーしてもらえて楽しかった。特に、タイ音楽は演奏ができて面白かった。
- ・かなり短い間での見学でしたが、ユースセンターの職員の方々の熱意、思いやりが強く感じられ、時間に関係なくタイの文化を深く学ぶ事が出来ました。
- ・日本と似ているところもあったのが面白かった。
- ・家族旅行では中々体験しない事だったのでよかったと思う
- ・タイの文化を短い時間だったが学んだ。タイの伝統的な踊りや楽器など知らないことが多かった。いろいろなタイの文化を体験でき、充実した時間になった。
- ・少ない時間の中、タイの様々な文化を知れてとても楽しかったです。
- ・タイダンス難しかった
- ・自分がタイ語に慣れてきて、職員の方に挨拶をすると皆さん笑顔で返してくれてとても嬉しかった
- ・タイの楽体験がとても楽しかった
- ・ドラを2本のばちで同時に叩く楽器が日本には無いもので面白かった
- ・改善点を挙げるとするならば、時間が短かったことしかあげられないくらい、充実した時間であったと思います。仮に将来バンコクに旅行、観光をしたとしても、触れることができない文化、体験を、現地の人から教えてもらえたことはすごく嬉しく、誇らしい気持ちです。
- ・私が特に印象に残っているのは、タイの伝統的なダンスです。私にダンスを教えてくれた方は、このダンスは小さい頃からやるという文化や、指先から足先まで丁寧に教えてくれて、最後には「ありがとう」と日本語までお話ししてくれて、物理的にも精神的にも距離が近く接しやすかったのもすごく良かったです。ありがとうございました！
- ・タイの文化に沢山触れることが出来、タイの楽器を演奏した事が、とても楽しかったです。
- ・自らタイの文化だけでなくその地域の活動が生でやったり見れたりしたのでとても

良かったです。

- ・ タイの伝統文化を体験することができました。
- ・ 日本には無い文化を体験できて楽しかったです。”
- ・ タイのダンスでは今までしたことのないような手の形をしたり、リズムを刻むように足踏みしたり、難しかったけど楽しかった。私は楽器を演奏することが好きで見たことのない楽器も触ることができて嬉しかった。いい香りがするのを作ったり、タイの昔話のようなものに出てくる鬼も知れてよかった。すべての体験でタイの人たちが丁寧に教えてくださったので、楽しくできた。

(3) Fab Café TCDC・ワークショップ

- ・ 実際に製品を作りながら、環境問題とそれを解決するためのアイデアや技術を使ったビジネスについても学べて、環境問題に関わる取り組みとして新しい学びを得ることができた。
- ・ 3D プリンターや VR など最新のイノベーションと環境問題の両立を学べた。
- ・ 何気なく集めているキャップが、異国の地ではどんなものに生まれ変わっているのかを知り、実際に肌で体験する事でリサイクルの重要性や作り変える過程を学ぶ事が出来ました。
- ・ プラスチックや環境問題は日本でも話題になっているが、タイではプラスチックを7種類に分けるなど日本よりも進んでいる感じがした。
- ・ もう少し環境についての講義が欲しいと思った。大半の時間が作品待ちになってしまった。
- ・ 廃棄されたプラスチックが自分の力によって他のものになっていったことを強く感じられるものだった。私がリサイクルしたキャップはほんの数個でしかないが世界中の人々が行えば大きな違いとなると肌で実感した。
- ・ プラスチックを利用したリサイクルを学べて、日本と違う利用の仕方をしているんだなと感じました。
- ・ ペットボトルキャップを溶かしてまた固めて新しいモノをつくる取り組み、自分たちは瓶のフタをつくったけれど、施設にはそれで作ったイスなども置いてあって普段ゴミとして捨ててしまうようなものでも新たに作り変えれば可能性は無限大なんだなと思った
- ・ 色んな色のキャップを混ぜて作ったので綺麗に模様がでて素敵な作品になった”
- ・ 体験については自分で好きな色のキャップを選び、自分の好きな画像を選択する、そこからやすりをかけるととても個人が尊重されている体験であると感じました。建物の中にも私たちが気づきそうで気づかない工夫が沢山されていて、特にひまわりの形の小型太陽光発電が印象に残っています。
- ・ この fab cafe での活動では英語が聞き取れなかったことが悔しかったことが1番印象に残っています。お話しされていることを直接聞けることが、貴重な機会で貴重な経験ということを自覚していたからこそ悔しかったです。英語の勉強に対してのモチベーションにもなったと感じています。ありがとうございました！

- 環境について知る事が出来た。また、マイクロプラスチックのごみを使って、物を作ることに對して、とても環境に優しいなと感じました。
- 私は FabCafé がどんな理由でできたのか又どんな進化を経て今ここに実現しているのかそれとこれから何をしたいのかが聞けてとても他のかったです。
- それと実際にビンのキャップをリサイクルしたプラスチックで作って後 UV 線でビンにデザインされる所がみられて最高でした。
- 世界中の環境に対する取り組みを学びました。面白かったです。
- まずファブカフェという場所を初めて知った。日本にもいくつかあることに驚いた。再利用できる資源を集めて製品を作るというゴミを減らす活動をしてくれてありがたいと思った。今回はペットボトルキャップを使って新しく自分色に 3D プリンターも使いながらかわいい瓶のボトルを作ってみて、楽しかった。このように自分で何かを作ることでそのものに愛着も湧くし、楽しいし、その上地球にも優しいので、自分でも身の回りでこのような活動ができればいいと思う。

(4) ベンジャキティ公園・植樹

- 高層ビルが立ち並ぶ街中に森のように緑や木がたくさん公園が広がっていることに驚いた。ただ観賞用の植物だけではなく、水の浄化のための草花や世界各国の人の手によって植えられた木が並んでいるところからは、バンコクの自然環境を大切にしている意識の高さを感じられた。
- 都市部に立地しており、タイの環境への意識を強く感じた。植樹では、未来との繋がりも実感できた。
- マラソン大会が開催されており、かなりの方がスポーツに対して前向きな思考であることを感じました。
- 初めて木を植えたが折れないか心配。
- 植樹は人生で最初で最後だと思うのでとてもいい経験だった。
- これも副知事の訪問のように、派遣という形でないといわれないものなので、暑かったけれどできてよかった。またタイに行って大きくなった木をみんなで見たいと思った。
- バンコクの都心部とは違い、公園には周りに植物がたくさん植えてあり、環境活動に専念している地域がある事に驚きました。
- 4年後に実がなると聞いたので、大学生になったらまたタイへ行って自分の植えた木を見に行きたい。
- 大都会の中に森のように緑溢れる場所があるのは、環境にとってもみんなの心にもオアシスの様でとても素敵な場所だと思った”
- 私にとって人生初の植樹体験であったため、バンコクという都市が私にとって、より特別な都市になったと思います。現地の付き添いの方も私たちが植えた木を定期的に見に行くと言ってくれたのが、私たちが日本に帰っても繋がりが持てるようで、すごく嬉しかったです。ありがとうございました！

- ・ バンコクはほとんどが緑がない街だったのに、公園には緑に溢れていて、日本では見られない鳥や、リスが居て、とても自然を感じることが出来ました。
- ・ 正直少し暑かったですが、バンコクに住む人々が土日何をしているのかが見られました。みんな暑い中走ったり又は結婚式の写真を撮ったりしていて日本では珍しい事がたくさんありました。
- ・ 植樹体験は残念ながら結果は5年後にしか見られないのですがもし訪れる機会があったら是非見に行きたいです。バンコクが綺麗になるように願っております。”
- ・ 日本では見られない植物をたくさん見ることができました。
- ・ たくさんの植物があつて、自然を感じられた。バンコク都庁で副知事が環境に対しての活動として話していたように、木を植える体験ができてよかった。自分で植えたことでまたこれを見るためにタイに来たいと思ったし、より環境に対して自分ごととして考えることができ私にとって良い機会だった。

(5) タリンチャン水上マーケット

- ・ フルーツやお惣菜がたくさん並んでいて、お土産も安く充実していて回るのが楽しかった。屋台が立ち並んでいて、店の人がとても優しく接してくれた。
- ・ 現地の店員との会話や値段交渉を交えてショッピングを楽しめた。ローカル感が最も強かった。
- ・ このマーケットは **the タイ!** っていう雰囲気のある場所で、名産品の果物などは欲しかったもののお店の裏側を見ると、床に刃物などを直に置いてあるなどの衛生面での心配があつたのでアイス系を食べていました。また、ディスカウントを楽しみとして行い、
- ・ 様々な工夫を凝らしながら現地の人との交流を深めつつ、売る側も買う側も Win-Win の関係を築く事が出来たと思います。
- ・ 今までこういう雰囲気の商店街に行ったことがなかったので、新鮮だった。ディスカウントが難しかった。
- ・ 楽しい買い物だった！！
- ・ みんなで買ったお揃いのものはこの派遣の思い出として大切にしたいと思った。日本でこのようなお店でものを売っているところを見たことがないので違いにびっくりした。売っているものは違ったが、日本の市場に似ていると思った。
- ・ タイでのローカルでの買い物で、値引き交渉や様々な食べ物が売っており、日本とはまた違った文化を知れました。
- ・ お店の方みんなとても優しく、値引きやおまけも沢山してくれてひとの温かさを感じた挨拶すると笑顔で返してくれて嬉しかった”
- ・ 私が想像していたタイが1番広がっている場所であったと思います。特にタイの屋台を少しでも体験できたことが嬉しかったです。またプログラムを知らないタイ人に、自分のタイ語が伝わったこともとっても嬉しかったです。ありがとうございました！

- お店の方がとても優しく笑顔で接してくれて、少し多く買うと値引きをしてもらえるお店があったりして、タイ人ならではの優しさに触れることが出来ました。
- 実際に地域の人々と触れ合っ食べものや工芸品が見られました。買い物をする時にバーゲンをする事でお互いが納得する値段まで言い合いをするのが楽しかったです。あちら側も楽しんでいたのでよかったです。
- 値引き交渉が楽しかったです。タイの方々の優しさを実感しました。
- 私がコミュニケーションをとれた人はみんなとても優しかった。私が多くの量の石鹸を買ったとき、お店の人がおまけと言ってひとつ石鹸をくれて、とてもうれしい気持ちになったし、心が温かくなった。私は買っていないけど大谷先生がお土産を買っていたときも、お店の人がおまけをくれていた。見ているだけで嬉しかった。

(6) コークランコミュニティ・環境学習

- ゴミを分別し、燃料にしたり再利用して製品にし、ビジネスとして利益を得たりするなど、コミュニティの循環システムは全世界で見習い真似していくべきだと思った。環境にやさしい生活のアイデアが溢れていて面白かった。
- ゴミを各家庭から収集するときに、ゴミの集積をデータベース化して、利益を分配するシステムはとても魅力的に思った。
- 衝撃的だったのは、”不衛生な川”に囲まれている町だったこと。川なので水が循環するはずが、常に汚濁した水が流れている事に疑問を持ち、現地の住民の方に聞いたところ、ゴミをゴミ箱に捨てる習慣が定着しておらず、お構いなしに川に捨ててしまう人が多い事が原因の1つだと教えていただきました。
- 一つの地域全体で環境問題に対して活動を行っていることが新鮮だった。
- 座学でも良かった気がしてしまった。
- ここでは環境にいい過ごし方をしている地域を訪問した。住民の1人1人が環境をきれいに保つために意識して過ごしていることが分かった。みんなで結束して解決に向かうことは地球規模でも大切だと思う。
- 廃棄物や再利用可能な物を積極的に使っていく場所で、限りなく自給自足を成り立たせている事に驚きました。
- とても暑かった。バンコクに来てからずっと栄えた華やかなところを見ていたから、一気に一般の人々の暮らしのリアルを見た気がしてその貧富の差に驚いた。唯一ごみをお金にできる取り組みを成功させているのは本当にすごいし、一緒に暮らすみんなの団結力に感動した。
- タイに行く前に、分別が疎かであるというイメージを持っていた私にとっては衝撃的な場所でした。分別への管理も方法もきちんとされていたし、それらをリサイクルして、お金まで発生させていることにも驚きました。
- 環境に優しく、再生して、ものを作ったりしている事を知って、貧富の差を感じ、衝撃を受けました。
- 島の地域の人々が困難で辛い時代を終えてきた事が伝わりました。今では水を綺麗

にするために島全体で呼びかけなどなるべくみんなが参加をして実行するように頑張っていると聞きました。後プラスチックを集めてそれを溶かして再利用して容器にして植物などを植えている事によって環境にはこだわりがあると感じました。

- ・ 日本でも見習うべき事や、システムがたくさんありました。
- ・ 自分たちで考えて生活しているのがすごいと感じた。肥料やシャンプーなど作れるものは自分で作って、節約もできるしとても環境にやさしい生活をしていた。今の周りの環境の中にいる自分たちで真似できることは少ないかもしれないけど、自分なりに今の自分が今いる環境でできることを見つけて生活していきたいと思った。

(7) アジアティーク・ザ・リバーフロント

- ・ 観光客向けのお土産や食べ物がたくさんあり、欲しいものがほとんどここで手に入った。クルーズディナーは世界遺産のワット・アルンも見ながら夜ご飯を食べれてとても貴重な経験となった。
- ・ お土産の調達と美しい景色を楽しむクルージングがあり、今回の派遣で一番の思い出となった。ワットアルンなどの有名な遺跡も見られて面白かった。
- ・ クルーズディナーはとても良かったと思います。ご飯を食べるより、写真を撮りあったりおしゃべりしたりなど、かなり仲が深まったイベントでもあり、チャオプラヤ川の水質汚濁問題を肌で感じる事の出来る機会でした。
- ・ 色々なお店が集まっていて楽しかった。
- ・ クルージングは最高の一言に尽きる。買い物の時間も完璧だった。
- ・ クルーズはタイで有名な場所を川から見る事ができた。個々の場所をじっくりみることができなかったのもまた個人で行ってみたい。観光客も多くいた。買い物をする時間があまりなかったので隅々まで見ることはできなかったが楽しかった。
- ・ タイの遊園地みたいな場所で、お土産や食事する場所、観覧車もあり、とても驚きました。また、クルージングで周りを回っていくディナーはとても楽しめました。
- ・ お土産が沢山売っていて見て回るだけでもとても楽しかった。クルーズも美味しいご飯を食べたりみんなで沢山写真を撮っていい思い出になった。
- ・ タイの水上マーケットよりは生活感がなく清潔感があって、日本のアウトレットのような場所よりは入り組んでいて、店と店の感覚が狭かったように感じ、新鮮でした。私はここでタイパンツとスイカジュースを買いました。特にスイカジュースは嫌な砂糖感がなく、飲みやすかったです。でもそこでタイにはボトルのサイズの種類がなく、日本のLを相当するサイズが普通に出てくることに驚きました。多かったです笑ありがとうございました！
- ・ 日本のアウトレットのような感じで、色々なお店があり見るのが楽しかったです。船の上からのディナーはとても楽しく、絆が深まりました。
- ・ おみやげなどが主に購入できる場所だったのでバンコクでしか買えないものが沢山手に入りました。すごく広く賑やかな場所でしたので暑さも気にしませんでした。クルーズでの体験は最高でした私は3階に居たDJの人とお話をし、一緒にダンスが

踊れてとても楽しかったです。クルーズから見える景色を素晴らしかったです。

- ・ クルーズディナーからの景色は今まで見たことも無いような素晴らしいものでした。
- ・ ここでは一緒に日本から行った友達とお揃いのブレスレットを買った。タイに来た思い出を形として残しておけるものが増えて、とても嬉しかった。日本に帰ってきてみんな離れ離れになったけど、これがあることでつながっている気持ちになれる。またここで初めてマンゴージュースを飲むことができた。クルーズ船では料理もおいしくて、景色も綺麗で楽しかった。

(8) ウィチュティット校訪問

- ・ 高校生や先生方が盛大に歓迎してくれて、積極的に生徒と話せたため仲良くなれてとても充実した時間だった。文化体験も完全な英語ではないが、ジェスチャーを通してバディの子と共にできてとても楽しかった。
- ・ バディとの会話や、日本遊びのレクチャーの中で、多くのコミュニケーションや文化交流ができて貴重な経験となった。
- ・ 1番の思い出といったら高校訪問だったと言えるくらい、心に残っているプログラムです。事前に伝えられていた、「向こうも春休みで人数が少ないかもしれない」という心配とは裏腹に、始めから終わりまで大歓迎ムードで親身な対応をしていただき、とても感動しました。また、タイの高校生は明るくとても社交的で初対面などお構いなしに接してくれて不安事などが吹き飛びました。1番印象的なのは、”スポーツは国を超えるコミュニケーションツール” だということです。チェアボールを通して、みんなの素顔や相手校の生徒の運動能力や性格なども感じとる事ができました。このような経験を大切に、今後活かしていきたいです。
- ・ 仲良くなれるか不安だったが、たくさんの子と話せて楽しかった。やっぱりスポーツが国とか関係なく仲良くなれるものだと感じた。
- ・ 海外の同じ年代と話すのはとてもいい価値があると気付かされた。是非今後の訪問においても同じような活動をして欲しい。
- ・ タイ派遣の中で1番と言っていいほど充実していたし楽しかった。こんなにも歓迎してくださるとは思ってなかったので嬉しかった。向こうの学校の子と友達になれた。帰る時はとても悲しかった。また会いたい。チェアボールは国籍関係なくひとつになれた感じがして一体感が気持ちよかった。
- ・ それぞれ言葉は違うけど、積極的に英語やタイ語を使って異文化交流したり、同じスポーツで楽しむことが出来ました。
- ・ 15人くらいしかいないと聞いていたのに実際に行ってみたら大勢の生徒さんから大歓迎をうけてすごくびっくりした。バディの子に英語が伝わらなくてはじめは戸惑ったけれど、身振り手振りや翻訳アプリを使っていろいろコミュニケーションがとれて楽しく過ごせた。伝統衣装を着られたのがとても嬉しかった。
- ・ 今までの訪問では、私たちよりも年上の方と交流させてもらうことが多かったの

で、同年代の子と交流を持てるのはすごく良い機会であったと思います。現地の学校で、学校の制服を着た子たちと、現地の文化を教え合うことは、私にとって一番異文化に馴染めた空間であったと感じています。スポーツをして、体を動かすことが万国共通で、仲良くなるのが早いことを痛感しました。日本に学校全体として興味を持ってくれていることもすごく嬉しかったです。ありがとうございました！

- ・ 同年代のバンコクの子と触れ合うのはここで、初めてだったので緊張していましたが、楽しく会話することが出来、とても仲良くなりました。
- ・ 私達が学校に着いた時に地域の踊りや音楽で迎えてくれたのでおどろきました。学生さんの学校の流れや日本との違いがはっきり伝わりました。抵抗が無く私たちを暖かく迎えてくれました。
- ・ 現地の高校生と仲良くなれました。今でもたまに連絡をとって、タイでの出来事を教えてくれます。タイと日本の高校における自由度の違いが面白かったです。
- ・ 盛大に先生も生徒さんたちも歓迎してくれて嬉しかった。学校内にコーナーや紅茶などがあるとこがあり、そこで生徒がバイトをできるということに驚いた。店員をすることを通して新たにあるものもあるだろうし、勉強方法として一つの良いものと思った。タイのお菓子は日本のたこ焼きと似ていて、少し親近感が湧いた。味は全然違ってココナッツの甘い味がして美味しかった。タイの伝統衣装を初めて着て、少し歩きにくかったので大変だったけど、衣装が綺麗で着れて嬉しかった。ムエタイも初めて生で見れた。とても迫力があってすごかった。私たち側から日本の伝統的な遊びを体験してもらったときは、コミュニケーションがたくさんとれて嬉しかった。メンコは難しかったけど、みんな楽しんでくれているようで嬉しかった。chair ball では言葉の壁を超えて、スポーツを通しタイの人たちと楽しめた。いろんなコミュニケーションの方法があっただけいいなと思った。

(9) 寺院訪問

- ・ 真っ白な寺院で金色の仏像を初めて見たがとても衝撃的だった。無人だが地元の人々によって綺麗に保たれていることがタイで仏教がとても浸透していることを表していたと思う。
- ・ 小さな寺院ではあったが、仏像や写真から神聖な雰囲気を感じ取れた。
- ・ タイで初めての本格的な寺院の訪問でした。日本とは違い、赤い絨毯が敷かれておりかなりゴージャスな見た目でした。
- ・ 同じ仏教でもお寺がすごくカラフルだったり、写真が飾ってあったりして驚いた。
- ・ もう少し大きい寺院に観光したかった。
- ・ 地元のタイ人が行くような寺院でも全体的に金でキラキラしていて迫力があると思った。
- ・ 自分が訪れたことのないローカルな寺院で、初めて知りました。
- ・ タイでは王様よりお坊さんが位が高いという仏教思想を実際に目で見て感じられた。祭壇の1番上はお坊さんだった。ラーマ9世の絵が飾ってあって、サングラス

をしていた。全体的にきらびやかで、日本のものとは違うなと思った。

- ・ 無宗教が一般的な日本で過ごしてきた私にとって、正直よくわからない場所でした。宗教というデリケートな文化ではあるため、難しいのかもしれませんが、タイをより深く知るために、もう少し私は説明が欲しかったです。
- ・ 日本の寺院と全然違い、伝統的な建物を見ることが出来て良かったです。
- ・ 私は宗教の関係で中にあまり入れなかったのですが学校の教科書で学ぶ物がはっきりと見れたので満足しました。基本的に綺麗で静かで落ち着くような環境でした。
- ・ 日本の寺院とは様相が全く違って面白かったです。
- ・ あまり大きくない近所の人たちがお参りにくるお寺と言っていたけど、とても綺麗で驚いた。特にお参りのときの方法は日本と変わらなかったけど、男性は膝たちのような状態で手を合わせるところが唯一日本と違うところかなと思った。またお寺の中は日本と違い色が多めだったので、綺麗だと感じたと思う。

(10) 豊田合成アジア・企業訪問

- ・ 海外の日系企業で働く上で、現地の人々が主体となった職場づくりが大切だということを知った。実際に職場を見学し、現地の人々と協力し対等な立場で働き意見を取り入れていくために行われていることなど初めて知ることばかりで興味深かった。
- ・ 私が住んでいる市のちかくに本社を構える企業が東南アジアに進出しているのを見て、誇らしく思った。また、工場見学は貴重であったと思う。
- ・ 見学した内容は難しすぎたのと、一部しか見せてもらえず、不完全燃焼でしたが個人的に質問に行った際の、タイで働いている人のお話は為になるものばかりで、これから人生を歩んでいく中での自分の視野が1つ増えたように感じました。
- ・ 日本の企業が海外でどのようなことを行っているのかなどが聞けて良かった。自分の進路の選択肢が広がった。
- ・ 愛知の企業の活躍を感じられて嬉しかった。
- ・ 日本に本社がある会社なので日本人がたくさんいると思ったがそうではなくて、タイ人が主体として会社を動かしているということに驚いた。また豊田合成さんの話は心に残るものがあった。
- ・ 自分たちが乗っている車は、ここから部品が製造されていることを知り、豊田合成アジアの凄さを目の当たりにしました。
- ・ 現地の職員の方と直接お話できて良い経験になった。日本人は真面目で仕事をしっかりやると言っていて貰えて嬉しかった。
- ・ 訪問する前は、日本の会社なのに、どうして訪問する必要があるのかと疑問ではありましたが、タイの人が動かしている組織だと聞いて納得し、恥ずかしく思いました。ktk（誰かの失敗に気付いたら指摘をする。指摘された人は怒るのではなくお礼を言う。タイ語の失敗・注意・お礼の頭文字。）という活動は私たちの日常生活においても大事なことで、それを当たり前、暗黙の了解として、軽視してしまう日本と

は反して、組織が徹底的に行う姿勢は私にとっては新鮮でした。

- ・ 日本人の方が多く仕事をしている事を知りびっくりしました。普段は見られない工場の中を拝見したり、将来の質問をしたり、とても良い経験になりました。
- ・ 実際の取り組みや考えを聞けて、主にタイの人達が仕事をしてタイの人達で会社を発展していく事についてとっても良い事だなと思いました。
- ・ 人づくりの大切さを知りました。日本の会社ではあるが、タイ人が技術力の中心を担っていることに驚きました。
- ・ 考えることの大切さと挨拶などの当たり前のことを当たり前にすることの大切さを学んだ。話を聞くだけでなく、実際に見ることで豊田合成のその技術の凄さをより感じる事ができた。自分たちで考えることで効率化を進めていたことがすごいと思った。私だったら、手作業と言われたら手作業で頑張るという選択肢しか出てこないと思うから、あらゆる方面から物事を考えて、行動することは本当に大切なんだと感じた。また、みんなが同じようにルールを守ることで豊田合成自体の環境が良い状態に保たれていると思った。

3. 印象に残ったプログラムを3つ選択してください。

ウィチュティット校訪問	13名
バンコク都庁・副知事への表敬訪問	8名
タリンチャン水上マーケット	7名
Fab Café TCDC・ワークショップ	4名
ルンピニーユースセンター・タイ文化体験	2名
コー克蘭コミュニティ・環境学習	2名
豊田合成アジア・企業訪問	2名
ベンジャキティ公園・植樹	1名

4. 滞在期間中、困ったことや不便に感じたことがあれば、記入してください。

- ・ 海外での宿泊だったため、ホテルの1人部屋は不安に感じるが多かった。
- ・ しおりの時間が日本時間か現地時間か分かりにくい。
- ・ ホテルのアメニティが不足していた。
- ・ ホテルのトイレが故障していた。
- ・ 同じ場所で1日中活動していると、何を学んでいるのか分からなくなる時がありタイのスタッフの方々も困っているように見えました。物作りなどで体験するのはとてもいい事だと思いますが、せめて半日とかにした方がいいと思います。
- ・ 特にありません。暑かったのは正直ありましたが、いただいたペットボトルの水を飲み切る前に新しい物を配ってもらっていたので問題なかったです。
- ・ ホテルの電気がたまにつかない時がありました。
- ・ トイレとシャワー（お風呂）の使い方。

5. 来年度以降このような派遣事業を実施する場合、どのようなプログラムがあると良いと思いますか？ ※複数選択可

現地の高校生との交流	11名
伝統芸能の鑑賞・体験	9名
ホームステイ	8名
博物館や美術館などの訪問	5名
現地の日本政府関係機関（大使館など）の訪問	2名
その他（自由記載） 寺院訪問	1名

6. 事前説明会について改善点があれば自由に記入して下さい。

例：内容、回数、長さ、知事表敬など

- ・ その場でウィチュティット校訪問時に行う文化紹介の内容や分担を決める時間があつたが短いと感じたため、事前に生徒に内容を考えてきてもらうよう言うておくなどのことをしておいたほうが良かったと思う。
- ・ 椅子の配置的にディスカッションがしにくかった。
- ・ タイ語指導が短かった。
- ・ 回数は増やしてもいいと思う。初めて対面して、そのまま本番となると、仲が深まる前に始まってしまい、初めの2日間はぎこちない雰囲気か漂っていた。
- ・ 今回の説明会で十分だと感じた。
- ・ 事前説明会以外で集まれる機会があればよかったなと思いました。
- ・ 2回以上あるとより良かった。
- ・ もう少し生徒が話せる時間や仲良くなるための取り組みがあつたら良いかと思いました。

7. 全体について、感想を記入してください。

- ・ 初めてタイへ訪れたが、どの訪問先でも温かく受け入れてくれたためとても充実した体験がたくさんできたと思う。また、違う高校から集まった13人ということで仲良く過ごせるか不安だったが、すぐに打ち解けて年齢関係なく協力し合えたのがとても良かった。環境をテーマに学習する日や文化体験、買い物の時間など毎日が本当に濃くて忘れられない経験をたくさんできた。海外の人とのコミュニケーションをする上で言語ではなくジェスチャーや心が重要だということが身をもって分かり、将来役立つ気づきや考えを得ることができて、参加して本当に良かったと思った。企画をしてくれた愛知県の方々や実行するにあたって私達のために準備や協力をしてくださったすべての方々に心から感謝しております。
- ・ 様々なプログラムを行う中で、タイの文化理解や環境への意識改革などがなされ、本当に貴重な経験となった。また、バンコク都の方や高校の生徒などと英語でコミュニケーションをする機会も多く、語学力も身についた。さらには、人との出会いも多くあり、それらを今後も大切にしていきたいと思った。とても意味のある一週間となつ

た。

- 20年後、50年後にあの時あのメンバーでタイに行かせてもらってホントに良かったと思える旅だったと思います。毎日が刺激的で正直、疲労はあったものの仲間に恵まれていたので乗り越えられて、学びきることが出来ました。今後もこのようなプログラムが組まれていくのであれば、後輩たちにもぜひ同じような貴重で、かけがえない経験を積んでもらいたいです！ありがとうございました！
- 普通じゃ体験できないことをたくさんできて良かった。自分はタイにはあまり興味がなかったが、今回の事業でタイについてもっと知りたくなった。また、自分の英語力も伸ばしたいと思った。
- この派遣でしか体験できないことが多かったと思う。この機会を作っていただいた愛知県、バンコク都の全ての人に感謝申し上げたい。
- 本当に楽しく、また多くの学びがあった派遣だった。タイの方々や愛知県庁の方々の大変な準備のおかげでこうした派遣に参加できていると思うので感謝したい。楽しむところはしっかり楽しんで学ぶところは真面目に学ぶことが13人全員できていたと思う。また私は自分から行動するのが得意な方ではないけれど他の仲間たちの積極的な姿を見て私も頑張ることができた。派遣に参加できて本当によかった。
- 今回の派遣で、改めてタイの文化や食事などを実際に体験して学ぶことが出来ました。また、他校の生徒と一緒に協力して過ごす1週間はとても濃く、あっという間でした。この先の人生でとても記憶に残る派遣になったなと思います。
- バンコク都の方や施設の方などたくさんの方々自分たちのために色々な準備を下さったのがよく分かって感動しました。本当に貴重な経験を沢山させてもらい、充実した1週間でした。ありがとうございました。
- たくさんの人のご支援、ご協力の上で、成り立っていたプログラムであることを帰ってきててもなお実感しています。学校も住んでいる地域も、学年も違う13人が集まった奇跡とともに愛知県、バンコク都の方とのご縁にも本当に感謝しています。私はこのプログラムに参加できたこと本当に嬉しく、誇らしく思います。貴重な経験をありがとうございました！
- とても不安を感じていましたが、1日1日がとても楽しく色々な事に挑戦することが出来、行く前より成長する事が出来たと思っています。派遣のメンバーとも現地の方々とも仲良くなる事が出来、嬉しかったです！本当にありがとうございました！！この派遣に参加出来て良かったです！
- なかなか6日間ではその国の政治や仕組み環境は理解はできません。ですがそれに少しでも触れて少しでも興味を持つ事とこの体験を利用し未来を作る事が出来ると感じました。
- 1週間、日本で留まっていたのでは体験できよう、毎日刺激的で濃密な時間を過ごすことができました。初めての海外だったので文化の違いに驚くことがたくさんありましたが、自分の視野を広げることに繋がりました。とても有意義な派遣でした！ありが

とうございました！今回のバンコク都派遣は私にとってとても良い経験となった。今までここまで大きな活動をしたこともする決断をしたこともなくて、海外も行ったことがなければ飛行機にすら乗ったことがなかったので、とても不安と緊張でいっぱいだった。しかし、同級生、2年生の先輩、愛知県の方々、バンコク都の方々、タイの人たちなどたくさんの人の話を聞いたりコミュニケーションをとったりする中で、この機会を無駄にしてはいけないと思い、積極的に活動しようと思えた。みんな優しく自分の素も出せるようになり、楽しくタイでの生活を過ごすことができた。このような恵まれた環境の中で得たタイの知識や文化を友達や周りの人たちに伝えていきたい。また、最後に愛知県の方がおっしゃっていたように、タイでの体験を私自身の未来にも役立てていきたいと思う。このような機会をくださった愛知県庁の方々、バンコク都の方々、先生、親、バンコク都派遣に関わったすべての人に感謝したい。本当に貴重な体験をありがとうございました。